

令和元年度総合教育会議 会議録

日時

令和元年5月9日（木） 10:00～11:00

出席者

市長部局：北橋市長、松元副市長、大下企画調整局長

教育委員会：田島教育長、シャルマ委員、吉田委員、清成委員、平野委員
大坪委員、太田教育次長

司会：佐野課長（教育委員会総務課総合教育会議担当課長）

佐野課長
ただいまより「令和元年度北九州市総合教育会議」を開会いたします。私は、政策部企画課長の佐野と申します。本日の開会の進行を務めさせていただきます。 最初に、北橋市長からごあいさつをお願いいたします。
北橋市長
本日はお忙しい中、北九州市総合教育会議にご出席いただき、お礼申し上げます。 教育長、教育委員の皆様には日頃から、北九州市の子どもの教育にご尽力いただき、深く感謝申し上げます。 本市は、昨年「SDGs未来都市」に選定され、目標の達成に向けた取組みを進めております。「教育」は、SDGsの目標4「質の高い教育をみんなに」として、重要な位置づけがなされております。 教育委員会におかれましても、これまで「北九州市教育大綱」の中で大きな柱であります「シビックプライドの醸成」や「北九州市子どもの未来をひらく教育プラン」の推進等、しっかりと取組みが進められてきました。 一方、平成27年11月の教育大綱策定後、3年半が経過しており、その間、子どもたちの教育を取り巻く環境も大きく変わってまいりました。 本日は、このような動き等も踏まえながら、子どもたちの未来づくりに向けて、新しい教育大綱について協議してまいりたいと思っております。 活発な議論となるように努めてまいりますので、皆様には忌憚のないご意見をお願い申し上げます。
佐野課長
ありがとうございました。 続きまして、田島教育長からごあいさつをお願いいたします。
田島教育長
教育委員会を代表いたしまして、一言ごあいさつ申し上げます。 市長におかれましては、平素より、本市の教育行政の充実にご理解いただきまして、改めてお礼申し上げます。ありがとうございます。 新学習指導要領への対応や教員の働き方改革、学校施設の老朽化対策など、教育行政に求められる課題は、年々多様化してきております。 教育委員会では、3年半前の平成27年度の総合教育会議にて策定しました北九州市教育大綱を踏まえまして、子どもたちの教育のための、ソフト・ハー

ド両面において、各種施策に取り組んでまいりました。

本日は、次期北九州市教育大綱について協議を行い、率直な意見交換を通じて、今後の教育行政の更なる充実につなげていきたいと思っております。

どうぞよろしくお願いいたします。

佐野課長

ありがとうございました。それでは、議事に入ります。

まず、報告案件「前北九州市教育大綱に係る取組状況について」です。

本日の会議では、新たな教育大綱を定める予定です。次期教育大綱に係る協議に先立って、まずは、前教育大綱に係る取組状況について、教育委員会からご報告をいただきます。それでは、ご説明をお願いいたします。

太田教育次長

それでは、資料1に基づき、説明させていただきます。

教育委員会では、平成27年度に策定した「北九州市教育大綱」に基づき、様々な取組みを進めてまいりました。

前北九州市教育大綱に係る取組状況について、主なものを説明いたします。

1ページをお願いいたします。

前教育大綱を掲載しております。

前教育大綱の「思いやりの心をもつ、自立した子どもをはぐくむ」という目標に向け、教育委員会では、学校、家庭、地域の連携のもとで、さまざまな施策を総合的に推進してきました。

主な取組みについては、2番目の市全体で子どもの教育を支える4つの柱に沿って、説明いたします。

2ページをお願いいたします。

1つ目の柱「本市が誇る文化芸術・スポーツ、歴史などの特性を活かした教育の推進」です。

まず、「文化芸術に触れ・学ぶ機会の充実」として、ミュージアム・ツアーです。

小学校3年生を対象に、新たな美術鑑賞プログラムを実施しました。世界的な名画を含む近現代美術のコレクションの鑑賞をはじめ、世界的な建築家磯崎新氏設計の建物や美術館からの市内の眺望見学という3つの体験を通して、子どもたちの想像力と感性を育むとともに、シビックプライドの醸成を図りました。昨年度は、市内小学校3年生7,730人が参加しております。

そのほか「小中学校での合唱フェスティバル」を実施するとともに、2020年には「全国中学校総合文化発表会 福岡大会」を本市で開催する予定です。

さらに、同年本誌で開催される「東アジア文化都市2020北九州」との連携により、芸術文化活動を通じた豊かな感性・創造性を育ててまいります。

次に、「本市の特性を活かした教育」として、SDGs未来都市としての特色を活かした教育の推進です。

SDGs環境アクティブ・ラーニングとして、実施希望の小学校4年生全員を対象として、自然に直接ふれたり、環境関連施設を活用した体験活動を実施したりすることで、主体的な学習に取り組まれました。

さらに、地域教材資料集として「仮称だいすき！北九州」を今後作成したいと考えております。

3ページをお願いいたします。

次に、「スポーツに触れる機会の充実」として、オリンピック・パラリンピック・ムーブメント事業です。

東京2020オリンピック・パラリンピック大会開催に向け、オリ・パラ教育推進校として平成30年度は31校・園を指定し、一流のスポーツ選手と直接触れ合うことなどを通して、スポーツの素晴らしさや、国際的なマナー、人権などについての理解を深めるオリ・パラ教育を市民文化スポーツ局と連携して推進しました。

また、運動系部活動については、全国大会などで優秀な成績を収めています。

次に、「地元企業などと連携・協力したキャリア教育」として小中学校におけるキャリア教育です。

学校生活から社会生活へ円滑に移行できるように、小中学校で連携しながら児童生徒の発達の段階に応じたキャリア発達を支援し、学校教育活動全体を通して望ましい勤労観・職業観を育成しています。

小学校では、家族や身近な人の仕事調べやインタビュー、商店街、工場などの職場見学、中学校では、職業人、社会人講話や、職場体験活動などを実施しました。

その他、地元企業の仕事内容や地元大学の研究などについて、直接体験できる産業経済局事業の「北九州ゆめみらいワーク」に毎年参加するとともに、小学校応援団による出前授業や、地元の企業人による講話などを通して、地元企業を知るとともに、キャリア教育にもつなげているところです。

4ページをお願いします。

次に、2番目の柱「市民総ぐるみで子どもの教育を支える取組みの推進」です。

まず、「学校、家庭、地域、企業の連携推進」として、先ほどもお話しした小学校応援団による出前授業です。

経済界と連携することで、企業が持つ人材や経営のノウハウなどを活かし、出前授業や児童向けの体験学習、教職員を対象とした研修などを実施しました。

平成29年度より、全小学校において実施しており、企業参加数も毎年増加しております。

そのほか、さまざまな学校の教育活動を支援する体制として「学校支援地域本部事業」に取り組むとともに「スクールヘルパーをはじめとした市民ボランティアの活用」や「部活動外部講師」の増員、「部活動指導員」の新たな配置などにより、市民総ぐるみによる取組みを進めました。

5ページをお願いいたします。

次に、「防災・安全に係る取組みの推進」として、防災・安全教育の推進です。

保護者や地域との関わりを大切にしながら、市民とともに防災意識を高めるため、平成24年度に作成した教材「北九州市防災教育プログラム」を活用した学習、避難訓練、災害時連絡カードを活用した啓発の3つの柱で実施し、保護者や地域との関わりを大切にしながら、市民とともに防災意識を高めています。

さらに、「全小中学校で避難訓練を年3回以上実施」とするとともに、「災害時連絡カード」や「通学路の安全点検」、「地域安全マップづくり」などにより、

家庭、地域や関係部局などと連携した取組みを進めてきました。

次に、これは子ども家庭局が中心となりますが、「地域での子供の居場所づくり」として放課後児童クラブと子ども食堂です。

特に子ども食堂では、保護者の帰宅が遅くなる家庭の子どもに対し、親が帰宅するまでの間、学校支援や食事の提供を行っています。

平成28年度は2か所、平成29年度は9か所で活動支援のための助成制度を創設、平成30年度は21か所、コーディネーターを配置しております。

6ページをお願いいたします。

次に、3番目の柱として、「特別な配慮を必要とする子どもの支援」です。

まず、「障害のある子どもへの支援」として特別支援教育を推進する場の整備で平成28年度は小倉総合特別支援学校、門司総合特別支援学校を開校するとともに、平成29年度、小池特別支援学校整備に着手しました。

また、令和元年度には「特別支援教室」を導入することとしています。

また、「特別支援教育を推進する体制」強化を図るとともに、「心のバリアフリー推進事業」などにより、障がい者理解を深める取組みを進めました。

次に、「いじめ、不登校などへのきめ細やかな対応」として、いじめへの対応です。

「いじめ基本方針に基づいた取組み」として、平成29年度から「中学校区ミーティング」を開催、全校一斉のいじめに関するアンケート調査と面談を行っています。

また、「長期欠席への対応」として、「小中連携SUTEKIアンケート」による長期欠席の未然防止、「不登校状態の子どもに寄り添った次への一步応援事業」などにを実施しました。

その他、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーの配置・活用による体制整備を図りました。

7ページをお願いします。

次に、「子どもの貧困対策」として、関係部局が連携した取組みの推進です。

子どもの貧困対策は、子育て、福祉、教育をはじめ、雇用、住環境など幅広い分野にわたる取組みであり、子どもの貧困対策に係る関係課長会議を設置し、全市的・全庁的な立場から、貧困の現状や課題を共有し、総合的な対策を推進してきました。

また、教育委員会での取組み、複雑化する社会への対応については、経済的支援として、就学援助、市奨学金、学習支援として、子どもひまわり学習塾を含めた補充学習の活用、自殺予防教育など、SOSを発信する力の育成に努めるとともに、小5全員面接など、相談しやすい環境整備に取り組みました。

8ページをお願いいたします。

最後に、4番目の柱「少子・高齢化社会を踏まえた公共施設マネジメント」です。

行財政改革大綱を踏まえた公共施設マネジメントとして、「図書館のマネジメントの考え方」です。

「中央図書館は、中核拠点施設として存続」「地区図書館は、地域拠点施設として存続」「分館は、大規模区役所出張所周辺の施設は存続、それ以外の分館は地区図書館などの整備状況や人口動態、利用実態などの推移をみながら縮減し

<p>ていく」としており、この考え方にに基づき、取組みを進めてきました。 以上が、前大綱の取組み状況になります。</p>
<p>佐野課長</p>
<p>ありがとうございました。ご意見などがあれば、ご挙手の上、ご発言をお願いします。北橋市長。</p>
<p>北橋市長</p>
<p>特別な配慮を必要とする子どもたちへの対応について質問します。 さまざまな子どもたちに対する指導や支援の充実が求められています。また、長期にわたる欠席は不登校の児童生徒も増加傾向と聞いています。 そのような状況を踏まえて、教育委員会では、どのように対応されていますか。</p>
<p>太田教育次長</p>
<p>現在教育現場には、教職員以外にも、子ども達をサポートするためのスタッフとしてスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなど、市長にもご配慮いただき充実した配置をしていただいています。 このような教職員以外の専門スタッフにも協力をいただきながら現場では、子どもたちの支援を行っています。 また、長期欠席の子どもたちや不登校の子どもたちには、学校長のリーダーシップのもとで、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携を図りながら、学校復帰につながるよう取り組んでいます。 特に、「連続して2日以上欠席した場合」には家庭訪問を行うなど、きめ細かな対応をしているところでございます。</p>
<p>企画調整局長</p>
<p>キャリア教育についてですが、子どもに対する授業の中で教えているということですが、地元就職ということを考えてときに、親への影響が非常に大きいといった話を聞きます。 教育委員会の管轄ではないかもしれませんが、PTAや親も巻き込んだ授業や取組みなどを行っているのでしょうか。</p>
<p>太田教育次長</p>
<p>まさに、そのあたりは大事なことであります。 「北九州ゆめみらいワーク」は、当然ながら中学校が対象となりますが、その中で保護者の方にもご参加いただくように案内をしているところです。 中学生くらいになると、子どもと保護者の意見が合わないことが多々出てきます。そういった齟齬が起こらないように、やはり学校側もしっかりつないでいかないとはいけません。先ほども申しあげたとおり教育だけでは完結しませんので関係局と連携させていただきながら、また教員への研修の機会をできるだけ設けていければと考えております。</p>
<p>松元副市長</p>
<p>「安全教育の推進」というところでお聞きます。 昨今地震や交通事故などが全国的に多発しています。ここでは消防や警察、地元など他の関係機関と連携して行っているとありますが、具体的にどういったことを行っているのでしょうか。 また、ハード面として、ブロック塀や老朽化対策などがありますが、この進</p>

<p>捗状況をお聞かせください。</p>
<p>太田教育次長</p> <p>小学校3、4年生を対象に「消防士さんと一緒」という事業を行っております。そこでは実際に消防士を招いて消防に関する指導をしていただいております。また、関係機関と学校との連携を想定した避難訓練を行い、関係を密にさせていただきます。</p> <p>外壁などのハード面は、補正予算でもかなり認めていただいております。今後の予算についても、しっかりとした対応ができるように進めていきたいと考えております。</p>
<p>田島教育長</p> <p>私からも補足させていただきます。</p> <p>まず、子どもの安全についてですが、警察OBの方がスクールサポートスタッフとして勤務されており、その幅広いネットワークを活用して、通学路の安全点検など手厚くサポートしていただいております。また、「学校支援地域本部事業」には地域の方々に参加していただき、学校を見守っていただくということもしていただいております。</p> <p>ハード面については、特に剥離の恐れがある外壁については、目視だけでなく年数が経過しているところ、傷みが激しいところを中心に点検を行い長期保全の計画に基づきながら計画的に進めてまいりたいと思います。今後ともぜひ、市長にはご協力いただければと思います。</p>
<p>北橋市長</p> <p>この3年半を振り返りまして、様々な教育の話題が報道されてきましたが、その中でも市民から評価されているのが学力・体力の向上です。教育委員会が、今まで頑張ってきた成果がだんだんと出てきたのではないかと思います。特に中学校男子は結果が出てきており、英語教育についても本市は非常に注目されていると聞いています。</p> <p>これを更に進めていくには、市長部局としても予算調製の面などで協力していきたいと考えておりますが、教育委員会としては、どのようにしていけば良いと考えますか。</p>
<p>太田教育次長</p> <p>やはり、学力体力アクションプランを基にコツコツと積み上げた成果だと思っております。これは、予算の面などで市長部局より特段の配慮をいただいたことも大きいと感じております。</p> <p>今年度より第2ステージということで、いらないものをそぎ落とし、本当に必要なものは何なのか、そして、子どもたちが主体的に学ぶ環境をどのように作っていくのかということ考え、この4月から様々なことに取り組んできております。</p> <p>まずは、今までいただいた支援を今後も継続していただきたいと思います。それ以外には、全国に先駆けて取り組んでいる英語教育が徐々に成果が出てきておりますので、こういった新しい取組みの成果をきちんと示しながら、今後も協力いただければと思います。</p>
<p>清成委員</p> <p>今後についてですが、新しい教育大綱にも言葉としてよく出てくる「SDG</p>

s)、この理念として「誰一人取り残さない」というものがありますので、教育自体の全体を向上させていくことももちろん大事ですが、「底上げ」という部分に特に力を注いでいきたいと思えます。そのためには、「子どもひまわり学習塾」などの事業の拡充などが必要であり、ひいてはそのための予算措置が必要ですのでご協力いただければと思えます。

佐野課長

それでは、次の議題に移らせていただきます。

次に協議事項「次期北九州市教育大綱について」です。本議事は、新たな大綱策定に向けて、協議いただくものです。

なお、本日の協議に先立って、教育委員会に大綱の案を送付し、事前にお目通しいただいております。

それでは、市長から新たな大綱に込める思いなどについて、一言お願いいたします。

北橋市長

新たな大綱に込めた市長としての思いについて述べさせていただきます。

3年半前のこの場の協議を経て前「北九州市教育大綱」を策定いたしました。

以降、この大綱の方向性に沿いまして、市民各界と力を合わせて教育政策が展開されてきたところであります。その中で先ほどの教育委員会からの報告にあったとおり、例えばわがまちに対する愛着と誇り、シビックプライドを醸成し、自分たちもこのまちのためになにかやってみようという前向きな気持ちを引き出す学習、また、このまちの魅力の大きな柱である環境や歴史に加えて、文化芸術というものに触れること、学校・家庭・地域の連携の推進など様々な成果と感じております。

社会の環境が大きく変化する中、子どもたちが新たな時代を切り拓いていくように、その力を育成することが大事です。一方で、児童虐待を防止する、あるいはいじめ、長期欠席などへ対応するなど、一人一人に寄り添った支援が重要になってきております。

SDGsの17の目標の中に「誰一人取り残さない」ということがあります。改めて教育現場でも感じているところです。昨年の6月にSDGs未来都市に選ばれました。まちを挙げてSDGsの推進に取り組んできましたが、日本はもとよりアジアや国際社会からも北九州市が評価されるように努力を続けているところであります。

また、シビックプライドの関連で言いますと、来年開催である東アジア文化都市として、政府から選定されました。芸術・文化・アートの面がかつてないほどの盛り上がり期待しているところであります。そのための準備を鋭意進めております。

これらについては、昨年度の総合教育会議で協議をしておりまして、子どもたちへの取り組みの方向性を共有したところであります。本市の特色も活用して引き続きで市民総ぐるみで子どもたちのシビックプライドの醸成を進めていきたいと考えております。

こうした思いで、新たな教育大綱を示させていただいたところであります。もちろん、学力・体力の向上や障害を抱える子どもたちへの配慮など様々な課題解決が同じように大事でもあると考えており、この思いも込めて教育大綱の

素案を提出させていただきました。

企画調整局長

新教育大綱の詳細について説明させていただきます。

資料2を1枚めくっていただいた左側にありますのが大綱の素案となっております。こちらは前教育大綱をベースに必要な点の見直しを行っております。

まず、I北九州市の未来を担う子どもの姿をお示したうえで「市全体で子どもの教育を支える5つの柱」を設定しております。

それでは、右側「新たな大綱の策定にあたって」にそって説明いたします。

まず、「SDGsの視点を踏まえたシビックプライドの醸成」です。

本市は、平成30年6月に「SDGs未来都市」に選定されました。11月には「北九州SDGsクラブ」を創設するなど、SDGsの達成に向け産官学民が一丸となって取組みを進めております。

子どもたちには、SDGsの視点を踏まえた教育を通して、本市の魅力を理解してもらい、本市に対する誇りや愛着を持ち、将来、ふるさとに貢献してくれる人材に育てたいとの思いから、SDGsの視点を踏まえたシビックプライド醸成ということの基本方針・副題として掲げました。

また、大綱に沿った教育政策の展開によりまして、北九州市の未来を担う子どもたちには、「本市に誇りを持つ子ども」「新たな価値創造に挑戦する子ども」「自立し、思いやりの心を持つ子ども」この3点に育てたいとの願いから、はじめに北九州市の未来を担う子どもの姿として掲げております。

次に、市全体で子どもの教育を支える5つの柱について説明いたします。まず1番目の「新たな時代を切り拓く力の育成」です。

人口減少・高齢化、グローバル化、さらには、AI等の急速な技術革新など、私たちを取りまく社会環境は大きく変化しています。このように社会変化のスピードが速まる中で、子どもたちには、新たな時代を切り拓くことのできる力を着実に育てていくことが大切であります。

そのために、学校におきましてはSDGsの視点を踏まえた教育を推進し、持続可能な社会の構築に向けた国際目標であるSDGsを理解し、実践できる子どもを育成する、そして、グローバル化に対応するための英語教育の充実、さらには、AIなどの技術革新の進展により、近い将来に到達が予想されます超スマート社会、Society 5.0であります。これを見据えた教育の情報化を進めていきます。

2つ目には、「本市が誇る文化芸術・スポーツ、歴史などの特性を活かした教育の推進」です。

本市では、文化芸術の力を活かした「創造都市・北九州」の実現に向けて取組みを進めております。こうした中、本市は「東アジア文化都市」の2020年の開催都市に選定されました。「東アジア文化都市2020北九州」による各種事業をはじめ、子どもたちが文化芸術やスポーツに触れる機会を一層充実するとともに、人材の育成を進めていきます。

また、地元の誇りとする文化を継承する取組みの推進や地元企業などと連携・協力したキャリア教育も進めてまいります。

3つ目は、「市民総ぐるみで子どもの教育を支える取組みの推進」です。

学校や家庭や地域、あるいは企業や団体、大学、NPO等と一体となって、

市民総ぐるみで子どもの教育を支える取組みを進めていきます。

4つ目は、「一人一人に寄り添った『誰一人取り残さない』子どもへの支援」でございます。

SDGsの「誰一人取り残さない」という理念のもと、障害のある子どもへの支援、いじめや長期欠席へのきめ細かな対応、児童虐待の防止、子どもの貧困対策など、一人一人に寄り添った子どもへの支援を進めていきます。

最後は、『働き方改革』の推進です。

社会全体で子育て・介護と仕事の両立など、誰もが充実し生活を送れるよう、働き方改革を進めていくことが必要であります。そのため、ワーク・ライフ・バランス実現に向けた社会全体での取組みの推進をしていきます。

教育現場では、全国的な課題として、教員の多忙化が指摘されております。本市の未来を担う子どもたち一人一人の可能性を引き出すため、教員が子どもたちと向き合う時間を確保し、生き生きと充実して仕事ができる環境づくりを進めていきます。

以上が、新たな大綱の項目と視点でございます。

佐野課長

ありがとうございます。なお、お手元に、子どもを虐待から守る条例のパンフレット、またSDGs漫画の冊子などを配布しておりますので、後ほどご覧ください。

では、資料2の大綱の案につきまして、ご意見があれば、ご挙手の上、ご発言をお願いします。

大坪委員

私がこの大綱を見て、一番力を入れたいなと思ったのは、シビックプライドの醸成というところです。これには大きく賛同するものであり、ぜひこの部分を教育の分野で実現していきたいと思っております。

先ほど、市長はいじめの問題や今後の子どもたちが積極的に動くための動機づけにシビックプライドが有効に働くのではないかとおっしゃられました。私は心理学が専門分野になりますが、まさに自分自身の価値をどれだけ信じられるかによって次に何ができるのかが変わってくると長年の研究からわかってきております。広い言葉で「自尊感情」といいます。

この「自尊感情」というのは他人と比べる必要はなく、自分には人並みの価値があるんだと自覚している人は、粘り強く物事に取り組んだりして新しいことに積極的に取り組んでいたり人間の能動性を支えている感情です。

「自尊感情」は当然ながら自分自身が人並みの価値があると思うことがポイントではあるんですが、私たちの自我は個人と集団の部分があり、このシビックプライドは北九州の子どもたち全員に共通する側面として子どもたちに実感してもらおうことができると思っております。

私の友人に、門司出身の人がいますが、この人が以前「バナナのたたき売り」を披露してくれました。その時に「この人は本当に門司が好きなんだな」と感じました。門司で育ったことを何も自慢するわけではなく、自分の育った土地の文化や伝統があるんだということを教えてくれました。

そういったように、地元への愛着を持つ子どもが一人でも多く育ってくれたらよいなと強く思っております。

吉田委員

私が教育委員を経験する中で、E S D、持続可能な社会づくりの担い手を育むような教育などを早い段階で取り組んでいるなど強く感じておりました。そのことが今回の新しい大綱に自尊心や自立心、他人を思いやる心を育むという形で盛り込まれていると思いました。

私は教育の目標として一番大切なのは「どうせ僕なんか」というような子どもを作らないという点だと思っています。それぞれの家庭の事情はあると思いますが、教員が子どもたちに寄り添うなど、ゆとりのある教育、子どもたちをしっかりとみることができるよう教育を進めていくことが、子どもの未来をつくることにつながります。また、本市の特徴や歴史などと教育を結び付けて科目を超えて考える力が身につけば、シビックプライドの醸成につながると思っております。

平野委員

働き方改革の推進を新たな大綱に入れていただいたのは大変評価できることだと思います。また、我々教育委員としても真剣に取り組んでいかなければならない課題と感じております。

私が教育委員となって驚いたのは、学力の調査報告がすぐに出され、それを迅速に学校へフィードバックしていく点であります。これは、現場の教員が熱心に取り組んでいる証拠だと思います。

教員の働き方改革は、決して「教員が楽になる」ということを目的としているわけではありません。この新しい大綱では、未来を担う子どもたちへの取り組みを行うために、子どもたちと直接向き合う時間を確保するというをしっかり明記していただいております。そのため、本来やるべきことをやるための施策であるということを市民全員が理解していかないといけないと思います。

現在も学校支援員や部活動支援員の導入など様々な取り組みを行っておりますが、やるべきことはやる、不要なことはそぎ落としていくとして、本来の意味での働き方改革が実現されるよう市長部局と一緒に取り組んでいきたいと思っております。ぜひよろしく願いいたします。

清成委員

もともとSDGsは地球規模の課題認識にとどまらず、17の目標を定め、具体的に何をすべきかということをも具現化したものと理解しております。

子どもたちのレベルでは、まず地球規模での課題を認識してもらおうということがスタートになってきますが、では何をすべきなのかという話になります。まずは、身近なことから実践していくことが大切だと思っておりますが、そういった意味ではこの漫画冊子は非常にわかりやすく、子どもたちにも理解できる内容だと評価しております。

2点目に、前回の総合教育会議にて複数の教育委員会からタブレット端末の導入をとすることを要望させていただきましたが、今後子どもたちが情報端末を利用して多くの情報に接していくこととなりますと、当然ながらリスクが発生します。今後の教育として、単にタブレット端末のテクニカルな部分だけを教えるのではなく、そこに潜むモラルやリスクを教えていきたいと思っております。

シャルマ委員

お伝えしたいことが3点あります

まず、シビックプライドについてですが、前教育大綱にもシビックプライドの記載がありました。平成27年11月の総合教育会議でこの言葉を初めて見て、まずは大人たちがしっかりと本市への誇りを持ち、その中で、子どもたちが同じように育っていければいいなと感じたのを思い出しました。

それからシビックプライドという言葉や概念、文化や芸術などの機運がだんだんと高まってきているのだと感じているところです。

地域の方々が子どもを大切に思い、登下校の見守りを行っております。これは本当に北九州市の大人たちが子どもたちを大切に思っているからだと思えます。3つ目にある市民総ぐるみというのはそういったことだと思えますし、これがシビックプライドの醸成にもつながっていくのだと思っております。

2点目に、教育現場についてですが、ここ最近では非常にスピーディーな動きがあるなど実感しているところです。若い先生方がたくさん現場に入ってきている今こそ指導力・授業力を向上させていくときですし、それが子どもたちの学力・体力の向上などにつながっていくのだと思っております。

3点目に、教育や子育てなど本市の魅力を外に向かって発信できるように、市内外問わず取組みを行っていければいいなと思っております。そのための予算措置等、ご協力いただければと思っております。

田島教育長

委員の皆様のご意見にあるとおり、この新教育大綱の精神を踏まえて、今後のプラン策定など、様々な教育政策を進めていきたいと決意表明させていただきます。

佐野課長

ありがとうございました。ただいま、教育委員会の皆様から、様々なご意見をいただきました。

田島教育長からは、大綱の案に基づき、今後の教育政策を進めていきたいとのご発言がございました。

つきましては、本日、お示ししている案を、正式に大綱として決定させていただくということによろしいでしょうか。

<一同、頷く>

ありがとうございます。では、北九州市教育大綱は、このとおりとさせていただきます。本日、策定とさせていただきます。また、大綱につきましては、学校や関係機関等に配布、掲示するなど、広く周知していきたいと考えております。以上をもちまして、議題に関する協議を終了いたします。

最後に、「その他」ということで、「次期教育プランの策定状況」について、教育委員会からご説明をお願いします。

田島教育長

それでは、次期教育プランの策定状況についてご説明させていただきます。資料3をお開きください。まず、法的根拠でございます。

教育プランは、教育基本法第17条第2項の規定に基づく、地方公共団体が定める教育振興基本計画でございます。

次に、プランの位置づけですが、教育プランは、「北九州市基本構想・基本計

画」の教育分野の分野別計画でございます。さらに、市長が策定した「北九州市教育大綱」の内容に沿った計画とします。

次ですが、資料一番下にスケジュールの案を掲載しております。

今年6月に素案策定し、6月下旬から7月下旬にかけてパブリックコメントを実施したいと考えております。そして、8月に成案として決定し、9月議会への報告を目途に策定作業を進めております。

2枚目をお願いします。現時点の、次期教育プラン体系図です。

右上の四角囲みをご覧ください。「対象分野」です。

対象分野は「子どもの学校教育に関する分野」に限定としたいと考えております。現在の教育委員会の所管事項との整合を図ります。

次に、「計画期間」でございます。

計画期間は、令和元年度から令和5年度の5年とします。現行プランでは、計画期間を10年としていましたが、社会の変化スピードが速まる中で、今回は5年が適当と判断したものです。

次に、「施策体系」でございます。

「ビジョン」として目標を掲げた、「ミッション」として、果たすべき5つの使命を示し、「アクション」として、具体的に12の施策へと繋げていきたいと考えております。

まず、一番左側にある「ビジョン」について説明させていただきます。

ビジョンとして、「目指す子どもの姿」と「目標達成に向けた取組方針」の2つを掲げたいと考えております。

一つ目は、「1 目指す子どもの姿」でございます。

盛り込むべきと考えております「キーワード」を3つ示しております。

1つ目は、「自立し思いやりの心をもつ子ども」、2番目が「新たな価値創造に挑戦する人材」、3番目が「本市の誇りを持つ子ども」、この3つとしております。

次に、「2 目標達成に向けた取組方針」です。

次期プランを確実に推進し、実効力を伴うためには、学校・教職員と教育委員会が一体となって取組みを進めることが必要であることから、「学校・教職員と教育委員会は互いにコミュニケーションを図り、目標を共有し、一体となって取組みを進める」という方針を考えております。

次に、「ミッション」について説明させていただきます。

次期プランにおきましては、本市が一丸となって取り組まなければならない5つのミッションを定めることと考えております。

「mission1『時代を切り拓く力を育む』」は、「新学習指導要領に対応し、学校マネジメントの充実を図るとともに、児童生徒が本市に誇りを持ち、新たな時代を切り拓く力を育成する。」

「mission2『働きがいのある学校づくり』」は、「大量退職・採用時代に対応し、業務改善を一層推進するとともに、教員の確保と育成を進める。」

「mission3『安全な学びの場づくり』」は、「早期化、複雑化する生徒指導上の課題や子どもの安全に対応し、支援体制を構築するとともに、防災・安全教育を進める。」

「mission4『市民総ぐるみでの支援』」は、「社会的・経済的な課題に対応し、

早期からのセーフティネットを構築し、市民総ぐるみで子どもたちを支援する。」

「misson5『未来を見据えた環境整備』」は、「学校施設老朽化対策に計画的に対応しつつ、ICTなど先端的な教育環境を整備し、Society 5.0時代における教育とデジタルの融合に挑戦する。」

以上をミッションとし、それらのミッションを果たすためのアクションを、以下のとおり、12の重点的な取組み・施策として掲げております。

なお、次期プランの施策体系の特徴といたしましては、「喫緊の課題となっている、大量退職・採用時代への対応、教員の多忙化について、明確にミッションとして掲げ、施策を推進すること」「近年、新たに顕在化してきた、子どもの貧困、スマホなどの社会的・経済的な課題への対応を施策として掲げたこと」などが挙げられます。

現在、各施策まで一通り議論を行いまして、素案を取りまとめている段階でございます。

先ほど協議いただいた次期大綱の内容もしっかりと踏まえたうえで、今後策定に取り組んでまいりたいと思います。

佐野課長

ありがとうございました。

以上をもちまして、本日の予定項目はすべて終了となります。最後に市長から一言ございますでしょうか。

北橋市長

本日は忌憚のないご意見をいただきまして、ありがとうございました。そして、教育大綱の素案についてご審議いただきましたが、ご了承いただきまして、また認識を共有できたことは大変うれしく思います。

教育大綱について、委員の皆様からご意見をいただいたところですが非常に重要なご意見であったと受け止めております。今後は予算調製権があります私どもと一緒に仕事をしていくこととなりますが、本日の皆様の意見を十分に尊重して努力していきたいと思っております。

教育長からは今後の取組みについて説明いただきました。盛りだくさんであります。改めて教育委員会が多くの重要な仕事をしているということを実感しております。次期教育プランの内容が実現できるよう予算調製権者の立場から精一杯努力させていただきたいと思っております。

タブレットについては、各方面の皆様からご好評いただいております。教育分野において優れているまちは、魅力ある都市像の重要な核心だと思っております。このタブレットにしましても、本日お示しいただいた教育施策にしましても、成果を上げますと多くの市民に共感いただきます。そうしますと、教育への予算措置というのがいかに重要かということを感じるところであります。

皆様には、ぜひ今後も活躍いただいて、一緒になって教育施策を前に進めるために私たちも努力していきたいと思っております。本日は本当にありがとうございました。

佐野課長

これもちまして、本日の会議を終了いたします。ありがとうございました。